

志賀町震度7！原発震災を問う

避難行動・再稼働についての住民アンケート調査 報告書



2024年12月14日

「2024年住民アンケート調査報告書」の発行にあたって

能登半島地震からまもなく1年。石川県の原子力防災は、能登半島地震によって新たな局面を迎えました。志賀原発周辺で次なる大地震が起こる懸念もある中、被災地石川が志賀原発を巡る原子力政策にどう向き合うのか、全国からも高い関心が寄せられています。

振り返ると、第1回の訓練は、志賀原発1号機の営業運転開始前年の1992年に実施されました。それから福島第一原発事故の前年の2010年まで、「原発は重大事故を起こさない。それでも周辺住民の皆さんには不安もあるだろう。だから安心してもらうため」として、隔年で住民参加の原子力防災訓練が実施されてきました。福島事故を経て原子力災害対策指針が大きく改定され、あわせて石川県原子力防災計画も広域避難計画を含む内容に改定されました。万が一、重大事故が起こっても、屋内退避や広域避難を実施して「影響を緩和する」というものになったのです。

ところが、今回の能登半島地震は福島事故後の避難計画に根本的な疑問を突き付けました。

内陸地殻内地震としては過去最大規模であり、死者は災害関連死を含めると400人を超え、負傷者も1300人に上ります。被害も多様で、多数の家屋の倒壊・損壊だけでなく、道路は至る所で亀裂・陥没・崩落・土砂崩れで通行止め、津波や大規模火災も発生。広域停電、広域・長期の断水、通信障害などインフラも途絶。地盤の隆起や沈降による影響も深刻です。劣悪な避難生活を強いられた被災者も少なくなく、災害関連死は200人を超えました。

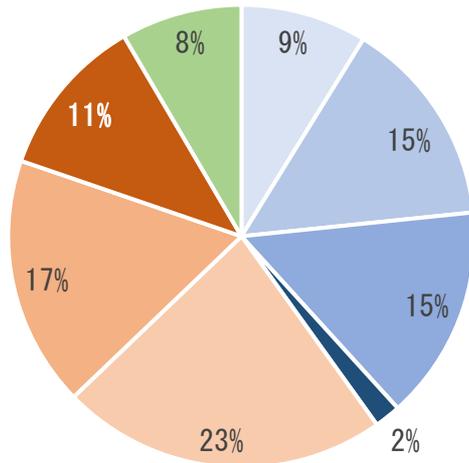
ここに原子力災害が重なったら、屋内退避も広域避難もできないのではないかと不安に駆られた人は少なくありません。あらためて「地震大国日本」に原発が存在するリスクにも関心が高まりました。

一方で政府は原発の重要性は変わらないとの姿勢を堅持し、原発回帰路線を加速させています。原子力規制委員会も「避難と屋内退避を組み合わせる原子力災害対策指針の基本的考え方は見直さない」との姿勢を早々に確認しています。

私たちは避難計画を含め、原子力行政を議論していくうえで住民の意識や生の声を知ることが不可欠と考え、この間、原子力防災訓練当日に住民アンケートを実施してきました。特に今回は能登半島地震後はじめての調査です。程度の差こそあれ皆さんが被災しており、その後の意識の変化は注目されます。調査にご協力いただいた274人の皆さんには心より感謝申し上げます。原子力防災や再稼働を巡る議論を深める一助になればとの思いから、この報告書を作成しました。ご活用いただければ幸いです。

調査日	2024年11月24日（石川県原子力防災訓練実施日）
調査対象地区	PAZ（原発から概ね5km圏） 志賀町 福浦地区 UPZ（原発から概ね5～30km圏） 志賀町 高浜町、領家町、地頭町、土田地区 七尾市 本府中町、小島町、大津町 輪島市 門前町道下（仮設住宅）
調査対象者	調査対象地区の住宅に戸別訪問 ※原発の賛否等には関係のない無作為抽出
調査員	石川県平和運動センターを中心としたアンケート調査実施団体の構成員
調査方法	調査員による対面聞き取り調査

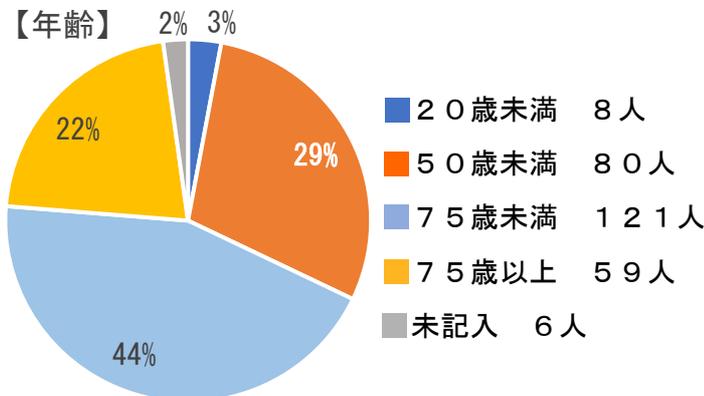
調査対象者について



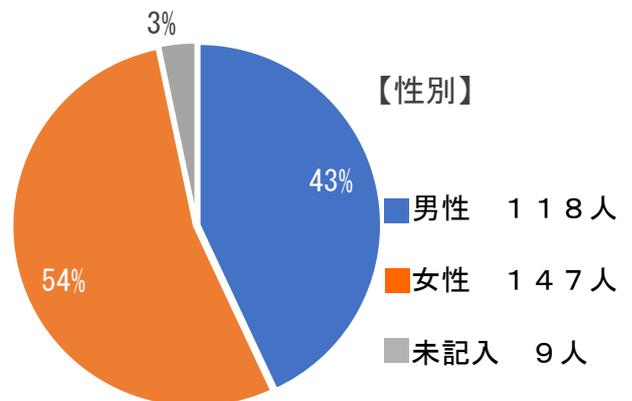
【回答者の居住地】

- 志賀町福浦 24人
- 志賀町富来領家町・地頭町 40人
- 志賀町高浜 41人
- 志賀町土田 5人
- 七尾市本府中町 62人
- 七尾市小島町 48人
- 七尾市大津町 31人
- 輪島市門前町 23人

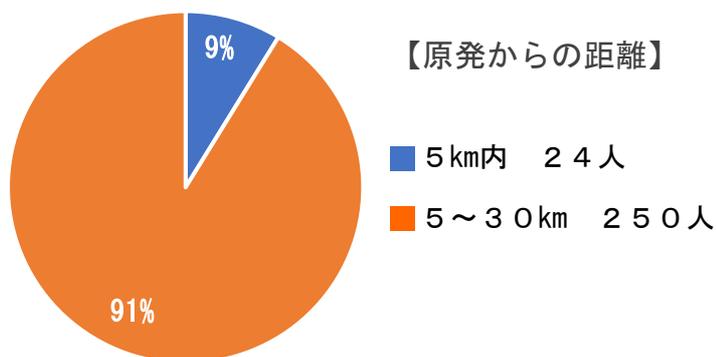
【年齢】



【性別】



【原発からの距離】



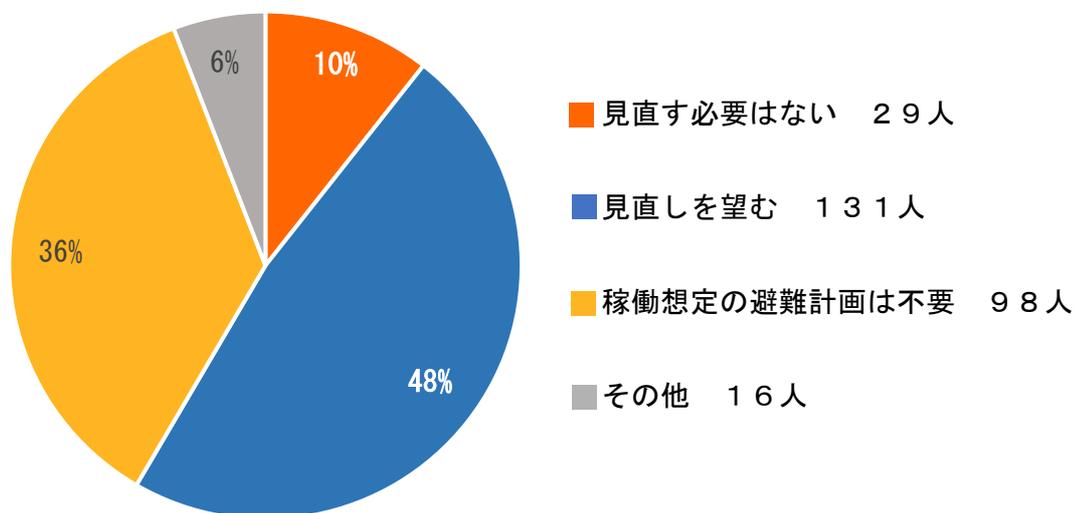
調査に協力いただいた方は274人。

調査対象地区は志賀町、七尾市、輪島市としました。いずれも能登半島地震によって被害を受けましたが、被害には濃淡があります。志賀町北部の富来領家町・地頭町は多数の住宅が被害を受け、奥能登方向への避難路も寸断されました。南部の高浜町は比較的被害が軽微。輪島市門前町では道下（とうげ）地区にある仮設住宅で調査を行いました。住宅被害に加え孤立集落となった深見地区の住民も入居しています。七尾市は、本府中町は古くからの市街地、小島町は若い世代も多い新興住宅地です。福浦は原発の北側に隣接しPAZ（5km内）、大津町は原発から約10kmの距離です。

年齢は20歳未満、子育て世代を含む若い世代として20～50歳、壮年世代として50～75歳、高齢世代として75歳以上の、4つの区分としました。

質問 1 元日に発生した能登半島地震によって、多くの家屋や道路が被害を受け、広い範囲で停電も発生し、通信も途絶え、孤立集落も発生しました。志賀原発は13年間停止中で、原子力災害には至りませんでした。大地震に志賀原発の事故が重なると、計画通りに避難はできないのではないかと心配する声があります。志賀原発の避難計画について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

1	今回の地震でも志賀原発に放射能漏れはなかった。 避難計画を見直す必要はない
2	地震と原子力災害の複合災害に備え、避難計画の見直しを望む
3	いつ、どこで、どんな大地震が起こるかわからない。 再稼働せず、廃炉にすべき（稼働を想定した避難計画は不要）
4	その他（ ）



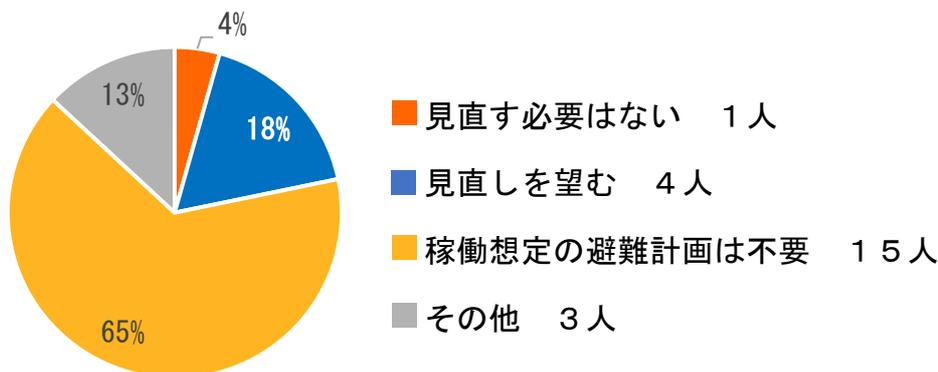
その他の意見

- ・そもそも避難計画を知らない。(富来地区・75歳以上・男性)
- ・考え及ばず。津波のことしかなかった。(本府中地区・20～50歳・男性)
- ・原発は必要だが、避難計画については知らない。(道下地区・男性)
- ・考えたこともない。避難で精いっぱい。(道下地区・女性)

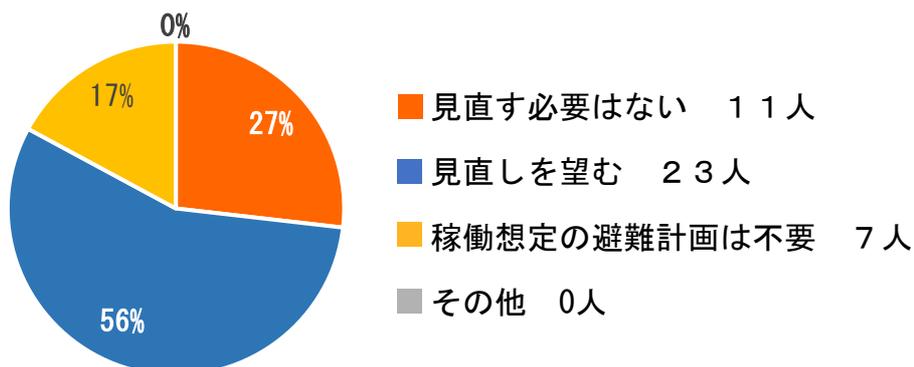
— 約半数が「複合災害に備えた見直し」を求める —
稼働を想定した避難計画に3分の1以上が異議あり

能登半島地震を踏まえての、初めての質問項目です。原子力規制委員会の山中伸介委員長は「原子力災害対策指針の基本的考え方は見直さない」とし、石川県は「現在の避難計画でいいとは思わない」としつつも国からの指示待ちの姿勢に終始しています。しかし約半数の周辺住民が見直しを求めていることが明らかとなり、その内容も多岐にわたります(参照;質問2)。一方、稼働を当然の前提とした避難計画に対して、3分の1を超える住民が疑問を呈したことも注目に値します。

【輪島市門前町道下】



【志賀町高浜】



【七尾市小島町】



— 被災状況によって異なる避難計画との向き合い方 —

今回のアンケート調査の対象地区の住民はそれぞれが被災者ですが、被災の程度やその後の避難生活には地区ごとに違いがあります。門前町道下地区は住宅が大きな被害を受け、避難所生活を強いられています。当初は道路も寸断され、原発事故が重なったら被ばくを強いられた地域です。海岸隆起は4～5mと、最も激しい地殻変動を目の当たりにした地域でもあり、避難計画の前提となる原発の稼働に反対の比率が最も高くなっています（志賀町土田地区は回答者が少ないため、地区別比較では除外して考えます）。

高浜地区は志賀町南部に位置し、今回の地震では比較的被害が少なかった地域です。避難計画の見直しは必要なしとの比率が最も高くなっています。

小島地区は、比較的住宅被害は少ないものの、長期にわたる断水生活を強いられてきました。周辺の地域では住宅の倒壊もあります。避難計画のあり方に多くの要望が示されています。

質問2 質問1で2と答えた方にお聞きします。

避難計画を見直す場合、あなたは何を重視しますか。下記から選んでください。

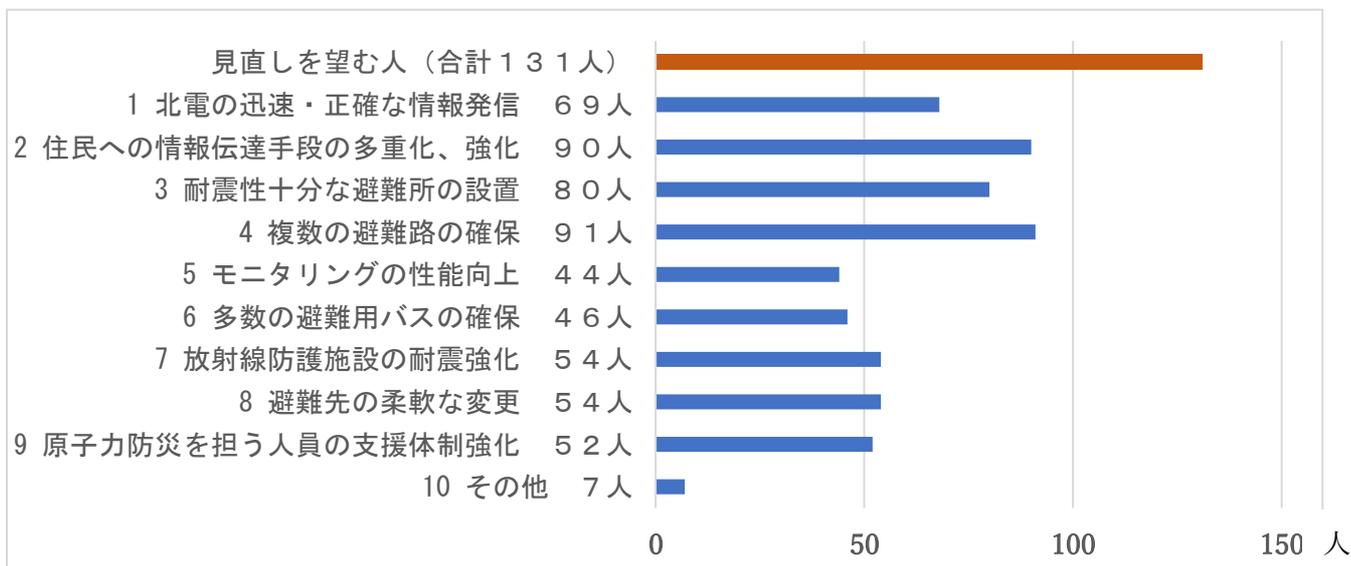
(複数回答可)

1	<北電の情報発信について> 迅速、正確な情報発信ができるよう運転員の能力向上を図る
2	<行政から避難や情報が届くように> 停電、スマホ不通などに備え、情報伝達ルートの多重化、強化を進める
3	<住宅被害に備えて> 屋内退避ができない場合に備え、耐震性が十分な避難所を多数設置する
4	<道路の通行止めに備えて> 耐震性が崩れ防止策を強化し、複数の避難路を確保する
5	<モニタリングポストの不具合に備えて> 放射線量を確実に把握できるようモニタリングポストの性能向上を図る
6	<車庫や住宅倒壊で自家用車が使えない事態に備えて> 避難用のバスをさらに多く確保する
7	<要支援者のための放射線防護施設の損傷に備えて> 施設の耐震性をさらに強化する。
8	<避難先の地域が被災する想定をして> 避難先の自治体や避難施設を柔軟に変更できるよう体制を整える
9	<自治体職員や消防関係者も被災し、原子力防災に手が回らない> 外部から原子力防災を担う人員が速やかに支援に入れるようにする
10	その他 ・

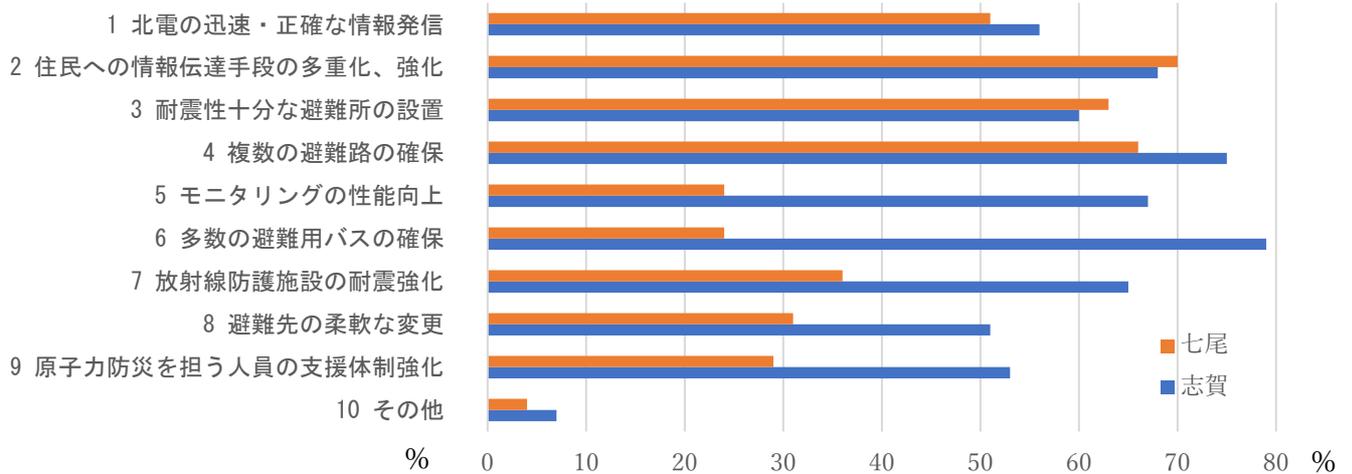
その他の意見

- ・避難先を変えてほしい。北はありえない。(福浦地区・75歳以上・男性)
- ・防災アラートの音声怖くて、パニックになる。(土田地区・50~75歳・女性)

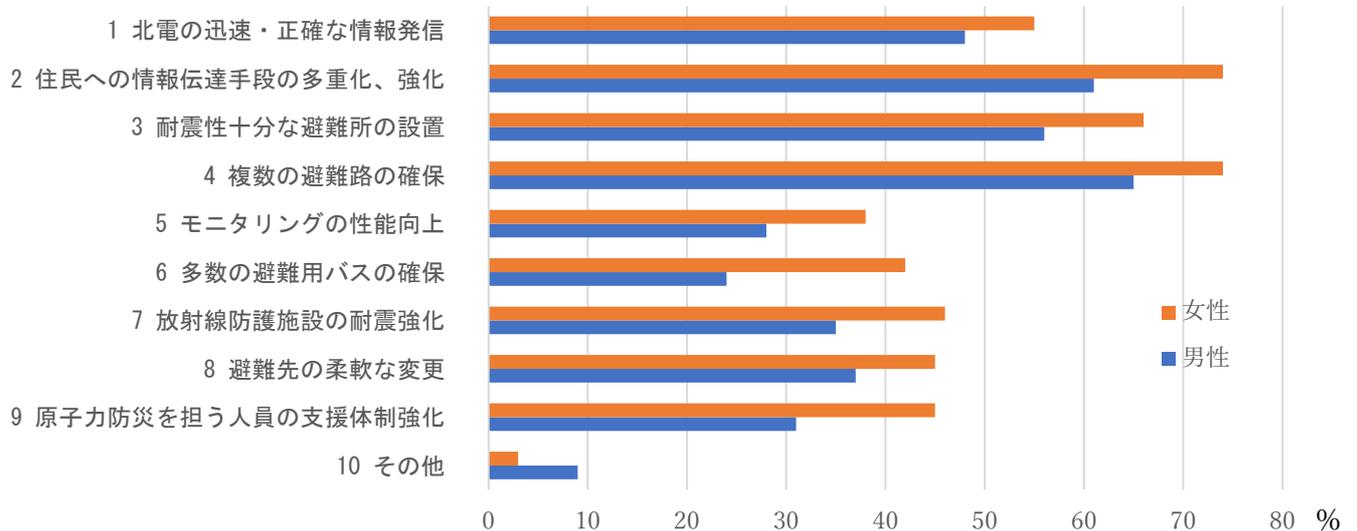
【項目別、重視する人数】(複数回答)



【志賀町と七尾市、重視する項目の比較】



【男女別、重視する項目の比較】 (%)



— 避難計画の全面的見直しを求める声が多数 —

ほぼすべての項目で過半数を超える人が見直しを求めています。計画の全面的見直し、計画の破綻を指摘していると捉えてもいいでしょう。

回答5のモニタリングのトラブル対策を求める声は、特に志賀町以外では比率が低くなっています。やや専門的で、住民が直接関わらない施設であるためと思われます。回答6の自家用車が使えない事態は、今回、奥能登で多く発生しました。車庫や家屋の倒壊、さらには津波で流されたり塩水を被るなど被害を受けました。しかし、今回の調査対象地区では直接そのような被害に遭った人は少ないため、対策を求める声は比較的少なくなったと思われます。

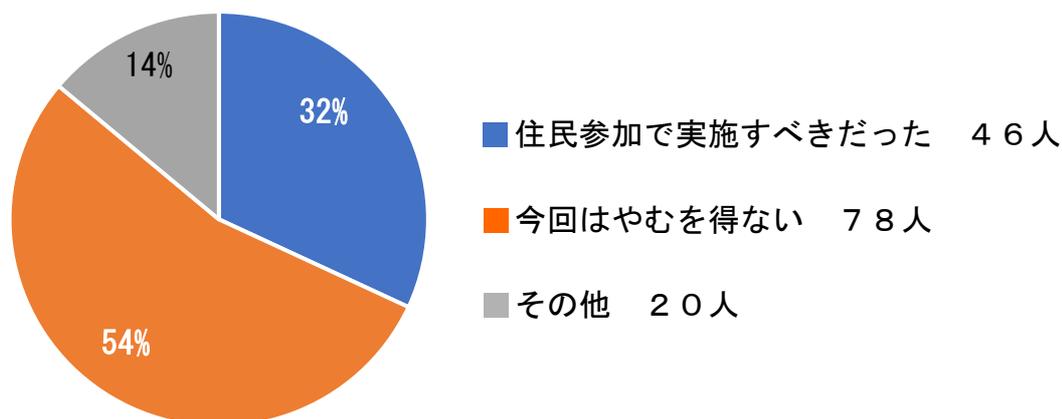
志賀町ではほぼ全項目が高い数値を示しました。立地自治体で、避難計画に対する認識も高いと思われます。女性が全項目で男性を上回りました。女性の方が避難に対する危機感が高いことが示されました。

回答用紙を見ると、全項目にチェックする人もいます。これは「計画の破綻」の意思表示とも思われます。一方で半数から3分の1程度の項目を丁寧に選択する回答も多数ありました。今回の地震を踏まえ、避難計画を自分の問題として捉えている姿勢が感じられます。

質問3 質問1で2と答えた方に続けてお聞きします。

本日は原子力防災訓練が実施されていますが住民参加はありません。訓練に対する考えをお聞きします。

1	住民の参加で計画の課題を検証し、計画見直しにつなげてほしかった
2	被災した年でもあり、今回はやむを得ない
3	その他（ ）



その他の意見

- ・訓練が実際に間に合うかたちにしてほしい。形だけでは意味がない。(福浦地区・50~75歳・男性)
- ・特に役員の人に参加してほしかった。(福浦地区・75歳以上・女性)

— 「住民参加なし（職員模擬住民）」に理解を示す声が過半数 —

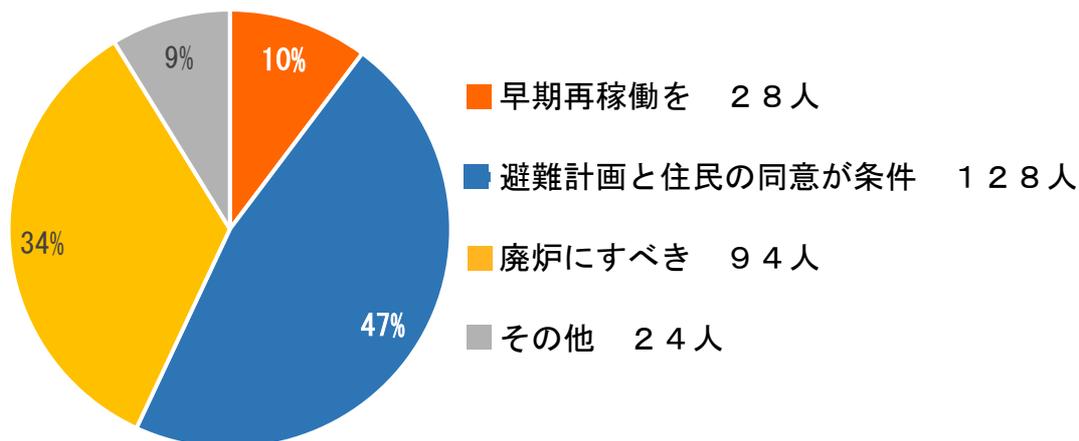
福島原発事故後の2012年から、コロナ禍による一時期を除いて、毎年住民参加で避難訓練は実施されてきました。今回は被災地住民に負担をかけられないという理由から、住民参加ではなく自治体職員が「模擬住民」となり、訓練が実施されました。

「今回はやむを得ない」と理解を示す声が過半数を占めました。

一方で、自由記述欄の「被災した年だからこそ、全員参加の訓練をしてほしかった」との声に象徴されるように、「能登半島地震の現実在即して、計画の課題を検証する」（石川県危機対策課）という目的を掲げるのならば、避難や屋内退避を巡る課題山積の現状に向き合う訓練を期待した住民が3割以上いることも忘れてはなりません。

質問4 北陸電力は志賀原発2号機について「重要な電源である」として再稼働を目指しています。志賀原発の再稼働について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

1	一日も早い再稼働を望む
2	安全の確保、実効性ある避難計画の策定、住民の同意が条件である
3	再稼働せず、廃炉にすべきである
4	その他（ ）



その他の意見

・もし稼働するのであれば完全に安全を守ってほしい。(富来地区・75歳以上・男性)

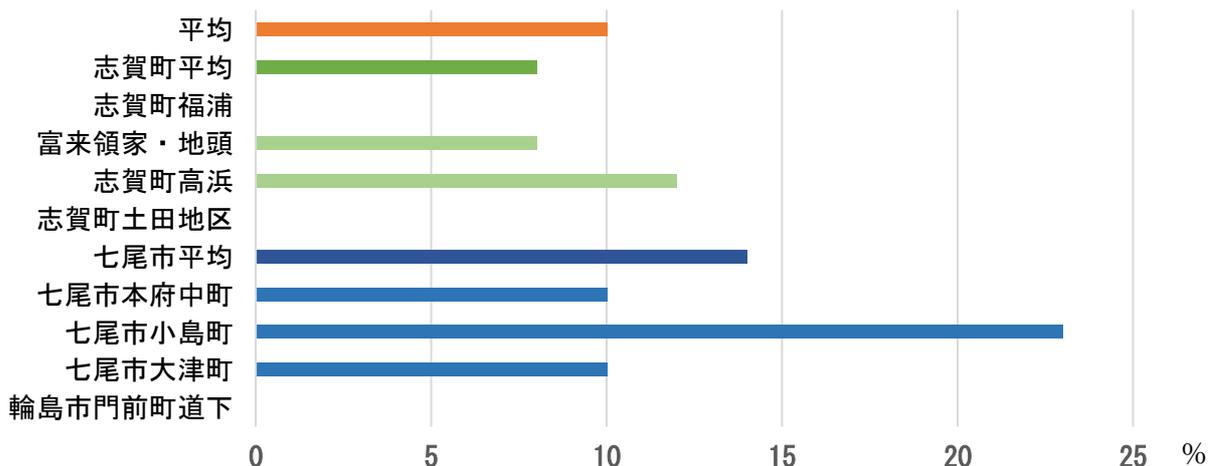
【男性】



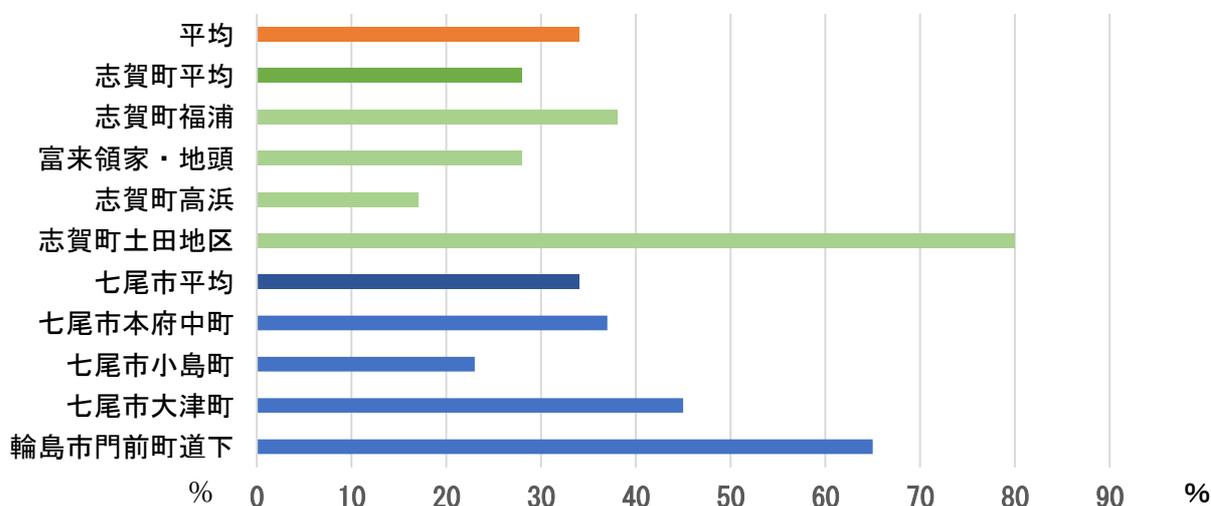
【女性】



【早期再稼働を求める人の地区別比】



【廃炉を求める人の地区別比】



— 「廃炉にすべき」が大きく増加、「早期再稼働を望む」は減少 —

志賀原発の再稼働についての考えを聞きました。「安全の確保、実効性ある避難計画の策定、住民の同意が条件である」とする人が過半数近くを占めていますが、大きな特徴は「廃炉にすべき」が増え、「早期の再稼働を」は減少していることです（次ページ参照）。

地域ごとの数値を見ると、地震の影響が確認できます。調査地域の中で被害が大きかった道下地区は65%が廃炉を求めています。志賀町の中でも被害大きかった富来地区と被害が比較的少なかった高浜地区では大きな違いがみられます。一方、小島町は再稼働を求める意見が2倍となっています。若い世代が多い地区ですが、年代に関係なく再稼働を望む声が多く、その背景は慎重な検討が必要です。男女別では女性の方が廃炉を求める比率が高くなっています。

全国的傾向と比較したいと思います。

- ・朝日新聞（2024年2月）「再稼働賛成50%、反対35%で能登半島地震の影響みられず」
- ・読売新聞（2024年3月）「既存原発活用に賛成37%、どちらとも言えない40%、反対23%」
- ・毎日新聞（2024年3月）「再稼働賛成36%、反対45%、能登半島地震でリスク再認識か」

参考までに2012～14年、そして昨年、私たちが行ったアンケートとの比較も紹介します。

	2012年	2013年	2014年	2023年	2024年
廃炉にすべき	37%	41%	32%	23%	34%
安全対策・防災体制の確立が条件	31%	33%	45%	45%	47%
早期の再稼働を	14%	13%	10%	15%	10%
わからない	18%	13%	13%	17%	9%

※2012年 志賀町、羽咋市、七尾市の住民389人

2013年 志賀町、羽咋市、七尾市、中能登町、宝達志水町、輪島市、穴水町の住民601人

2014年 志賀町、羽咋市、中能登町の住民580人

2023年 志賀町、羽咋市、宝達志水町の住民229人

※選択肢の表現はそれぞれ若干異なります。

「廃炉にすべき」が昨年より11%増え、「早期の再稼働を」とする意見は最も低い10%に戻りました。「早期の再稼働を」は全国的な数値とは大きく異なっています。敷地内断層問題に加え、能登半島地震の影響も確実に反映されています。

質問5 志賀原発の再稼働や防災計画、防災訓練などについてご意見がありましたらお聞かせください。

志賀町

<福浦地区>

- ・被災した年だからこそ、全員参加の訓練をしてほしかった。(50～75歳・男性)
- ・安全を重視して、隠したりせず情報公開してほしい。(50～75歳・男性)
- ・今まででもなんで輪島市なのかと思っていた。今回の訓練のことを想定していなかったのか。
(75歳以上・男性)
- ・正直に、うそをつかず、情報を出してほしい。今でも北能登方面に避難するのか。いざとなれば、里山海道を南下のための専用道路にしてほしい。(福浦地区・50～75歳・男性)
- ・形だけの訓練はやめてほしい。もっと情報を公開してほしい。(50～75歳・女性)
- ・訓練に参加したことはあるが、現実には役に立たなかった。なんなんだろう。
(50～75歳・女性)
- ・防災無線は聞こえなかった。町議に要望して避難路にある岩をどかしてもらった。
(75歳以上・女性)
- ・父は反原発でたたかった。狭くてヘリポートになるところがない。高齢化がひどく、自力で避難できない。考慮してほしい。(75歳以上・女性)
- ・地震のときは避難所に入らず、車中で避難していた。(75歳以上・女性)
- ・実際には海と崖で逃げられない。避難路を明確にしてほしい。(20～50歳・男性)

<富来領家町・地頭町>

- ・携帯やテレビ、ラジオがなくても、家の中で防災放送が聞けるようにしてほしい。
(75歳以上・男性)
- ・電気代を思うと、安全に稼働してほしい。(20～50歳・女性)
- ・この土地に住み続けたい。放射能漏れがあると住めなくなる。(75歳以上・男性)

- ・原発推進。安全を確保し、再稼働してほしい。(50～75歳・男性)
- ・再稼働には完全反対！(20～50歳・男性)
- ・今すぐ廃炉にすべきだ。危険であり、人命優先。(50～75歳・男性)
- ・親戚が北電に勤めている。(20～50歳・男性)
- ・電力の確保を考えると難しい問題ではある。(20～50歳未満)
- ・避難路を明確にするなど計画をしっかりと示してほしい。地震後、電気があることにありがたいと思った。北陸電力には感謝しており、再稼働を望んでいる。(50～75歳・女性)

<高浜地区>

- ・多くの原発に視察に行ってきたが、志賀のように民家に近いところはない。(75歳以上・女性)
- ・今回の地震では道路が寸断された。本当にバスを出しての避難ができるか。屋内退避であっても、しっかりとした施設への入所ができるのか、具体的に示してほしい。
- ・仕事してる人もみんなで避難訓練すべき。避難訓練参加しなかったら意味がない。
(50～75歳・女性)
- ・これから子、孫、ひ孫に危険なものを残したくない。今すぐ廃炉にしてほしい。

<土田地区>

- ・これからの子どもたちのため、安全・安心な新しいエネルギーに全力でシフト変更をお願いします。原子力がある限り、どんな避難計画を立てても完全に安全ということはない。不安の原因を取り除くため、廃炉にしてください。いざとなったら逃げきれません。
- ・能登半島地震の最大の教訓は日本列島に原子力発電所はあってはならないということ。日本のどこでも大地震の起こる可能性があること。そしてその大地震による複合災害により、原発の事故による放射能からの安全な避難など不可能である。私はその教訓を伝える「語り部」として役割を果たしていきたい。(土田地区・75歳以上・女性)
- ・志賀原発被災について、北電は正確な情報を発表しておらず、マスコミ報道によって敷地内被災の問題がわかるばかりです。栈橋の沈降、敷地内の凸凹による非常用対策車両の動き、使えないモニタリングポスト、冷却水漏れ、変圧器の油漏れ・・・等々、多数の被災件数。それらがどのように避難訓練の中で「解決」されるのか知りたいものです。更に住民の立場で言えば、「私達はどこへ避難することになるのでしょうか」を問いたい。(75歳以上・男性)

七尾市

<本府中町>

- ・訓練では、地域の要所に案内できる人を配置してほしい。(50～75歳・女性)
- ・当局がウソをつかず流す正確な情報が、各家庭に伝わるようにしてほしい。
(50～75歳・男性)
- ・国のやること、何が正しいかわからない。(75歳以上・女性)
- ・安全第一の稼働あり。(75歳以上・女性)
- ・原発のことは全くわからない。(50～75歳・男性)
- ・原発はなくては困る。安全であってほしい。(75歳以上・女性)

- ・子どもたちの未来のために、よい方向でいってほしいです。(20～50歳・女性)
- ・実情、電力不足はないので再稼働の必要性は感じないが、動かすのであれば住民同意は必須。
(20～50歳・男性)
- ・電力不足のため、原発以外の違う方法でできないか。防災訓練も実際の行動につなげられるような訓練を住民参加でやれたらいいと思う。(50～75歳・女性)
- ・地球を汚さず電気を起こす方法は、ドイツを見たらいくらでもある。想定外のことはいくらでもある。だから危険な原発はダメ。(50～75歳・女性)
- ・県職員なのでオフサイトセンターにいかなければならない。(20～50歳・男性)
- ・避難は無駄。原子力はほぼ安全です。(20～50歳・男性)

<大津町>

- ・結果ありの訓練で意味がない。(20～50歳・女性)
- ・もし爆発していたらどうしていただでしょうか。金沢、珠洲への避難は現実的でしたか。能登全体生活できないと思います。(20～50歳・女性)
- ・原発はあぶない。(50～75歳・女性)
- ・廃炉の道のりは長いですが、原発はいらぬ。避難誘導もしっかりされていない。孤立状態となるため、しっかり計画を作ってほしい。(75歳以上・男性)
- ・安全性から見れば廃炉がいいと思うが、経済などを考えると再稼働もやむを得ない。
(50～75歳・女性)
- ・様々なパターンでの訓練を定期的に行ってほしい。(20～50歳・女性)
- ・質問2ですべてに○が付いたという事は廃炉にすべきかもしれませんが、今の社会では電力の力が大である。違うかたちでも出来るだけ料金等を安定させてほしいと思います。
(75歳以上・女性)
- ・再稼働は、住民の同意が必ず必要である。まだまだ復興には時間を要するので、国民の安全・安心を第一に考えてほしい。(50～75歳・男性)
- ・活断層が問題視されているのに稼働とは理解できない。ヨウ素剤の保管、管理、配布、使用方法などの説明が必要。(75歳以上・女性)
- ・これから先、人口減が進むのに、まだ原発がいるのか疑問。(20～50歳・男性)
- ・10km内に家があり、事故があればすべてが核のゴミになってしまう。だれも責任が持てない。すぐに廃止すべき。廃炉のみである。(75歳以上・男性)
- ・廃炉とは言えないが、よくよく検査してから。(50～75歳・男性)
- ・いろいろな問題を見て見ぬふりして再稼働など、とても、とても考えられない。
(50～75歳・女性)

輪島市

<道下地区>

- ・電力不足にならないようにしてほしい。(男性)
- ・原発はおそろしい。やめてほしい。(75歳未満・女性)
- ・原発はいらぬ。(50～75歳・女性)

2024住民アンケート 地区別集計

	志賀町		福浦		領家・地頭		高浜		土田		七尾市		本府中		小島		大津		輪島市道下		計		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
総数	110		24		40		41		5		141		62		48		31		23		274		
男	48	44%	16	67%	20	50%	11	27%	1	20%	65	46%	28	45%	25	52%	12	39%	5	22%	118	43%	
女	62	56%	8	33%	20	50%	30	73%	4	80%	73	52%	32	52%	23	48%	18	58%	12	52%	147	54%	
不明	0		0		0		0		0		3	2%	2	3%	0		1	3%	6	26%	9	3%	
問1	1	16	15%	3	13%	2	5%	11	37%	0		12	9%	7	11%	2	4%	3	10%	1	4%	29	11%
	2	57	52%	14	58%	20	50%	23	56%	0		70	50%	22	35%	35	73%	13	42%	4	17%	131	48%
	3	34	31%	7	29%	15	38%	7	17%	5	100%	49	35%	24	39%	10	21%	15	48%	15	65%	98	36%
	その他・不明	3	3%	0	0%	3	8%	0		0		10	7%	9	15%	1	2%	0		3	13%	16	6%
問2	1	32	56%	8	57%	10	50%	14	61%	0		36	51%	17	77%	14	40%	5	38%	1	25%	69	53%
	2	39	68%	7	50%	13	65%	19	83%	0		49	70%	18	82%	25	71%	6	46%	2	50%	90	69%
	3	34	60%	6	43%	12	60%	16	70%	0		44	63%	10	45%	24	69%	10	77%	2	50%	80	61%
	4	43	75%	10	71%	14	70%	19	83%	0		46	66%	15	68%	24	69%	7	54%	2	50%	91	69%
	5	26	67%	3	21%	9	45%	14	61%	0		17	24%	8	36%	5	14%	4	31%	1	25%	44	34%
	6	27	79%	4	29%	10	50%	13	57%	0		17	24%	7	32%	6	25%	4	31%	2	50%	46	35%
	7	28	65%	4	29%	8	40%	16	70%	0		25	36%	8	36%	10	29%	7	54%	1	25%	54	41%
	8	29	51%	6	43%	9	45%	14	61%	0		22	31%	5	23%	11	31%	6	46%	3	75%	54	41%
	9	30	53%	4	29%	10	50%	16	70%	0		20	29%	10	45%	4	11%	6	46%	2	50%	52	40%
その他・不明	4	7%	3	21%	1	5%	0		0		3	4%	2	25%	0	0%	1	8%		0%	7	5%	
問3	1	15	26%	8	57%	2	10%	5	22%	0		20	29%	8	36%	8	23%	4	31%	3	75%	38	29%
	2	31	54%	4	29%	13	65%	14	61%	0		43	61%	11	50%	27	77%	5	38%	0	0%	74	56%
	その他・不明	11	19%	2	14%	5	25%	4	17%	0		7	10%	3	14%	0		4	31%	1	25%	19	15%
問4	1	8	7%	0		3	8%	5	12%	0		20	14%	6	10%	11	23%	3	10%	0	0%	28	10%
	2	62	56%	15	63%	23	58%	23	56%	1	20%	60	43%	28	45%	21	44%	11	35%	6	26%	128	47%
	3	31	28%	9	38%	11	28%	7	17%	4	80%	48	34%	23	37%	11	23%	14	45%	15	65%	94	34%
その他・不明	9	8%	0		3	8%	6	15%	0		13	9%	5	8%	5	10%	3	10%	2	9%	24	9%	

住民アンケート 年齢・性別集計

年代	20歳未満			50歳未満			75歳未満			75歳以上			不明	性別 不明	性別計			計	
	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女			人数	男	女		不明
人数	8	80			121			59			2	4	274						
構成比	3%	29%			44%			22%			1%	1%							
人数	3	5	46	33	1	48	72	1	20	36	3	1	1	4	118	147	9	274	
問1	1		2	3		9	3		3	8	1				14	10%	1	29	
	2	3	3	26	19	20	41		5	13				1	54	46%	76	131	
	3		2	14	10	1	18	25	1	12	2			3	42	36%	49	98	
	4			4	1	1	1	3		2	3	1	1		8	7%	8	16	
問2	1	2	1	10	9	13	23		1	9				1	26	48%	42	55%	69
	2	1	2	18	14	13	31		1	9			1	33	61%	56	74%	90	
	3	2	2	18	14	9	26		1	8				30	56%	50	66%	80	
	4	1	2	19	14	12	32		3	8				35	65%	56	74%	91	
	5	1		6	3	7	20		1	6				15	28%	29	38%	44	
	6	1	1	8	4	5	22		0	5				13	24%	32	42%	46	
	7	1		10	8	5	22		3	5				19	35%	35	46%	54	
	8	1		10	7	8	20		1	7				20	37%	34	45%	54	
	9	1		8	3	6	23		2	8			1	17	31%	34	45%	52	
	10	0				4	1	1		1	1			5	9%	2	3%	7	
問3	1	1	4	6	6	6	13		2	5				13	24%	25	33%	38	
	2	2	2	19	12	10	24		2	3				33	61%	41	54%	74	
	3			3	1	4	4		1	5			1	8	15%	10	13%	19	
問4	1	1	4	6	6	7	6		3	0				15	13%	13	9%	28	
	2	2		28	13	21	36		6	20	1	1		58	49%	69	47%	128	
	3		4	7	12	1	16	24	1	14	2		2	33	28%	55	37%	94	
	4			7	2	4	6		1	2			2	12	10%	10	7%	24	



発行：2024年12月14日

住民アンケート調査実施団体

石川県平和運動センター
原水爆禁止石川県民会議
志賀原発を廃炉に！訴訟原告団
さよなら！志賀原発ネットワーク
社民党石川県連合
石川県勤労者協議会連合会